

# 第48回全日本U-12サッカー選手権大会

## 審判インストラクター研修会報告書

北海道 サッカー2級審判インストラクター  
長浜 杏名

### 1.研修概要

期間 2024年12月25日(水)～28日(土)

※事前WEB研修会 計3回

会場 鹿児島県 鹿児島ふれあいスポーツランド 他

参加者	ユース審判員	32名(北海道:鈴木陽和、吉村心)
	地域インストラクター	16名(北海道:長浜杏名、靱山智哉)
	JFAインストラクター	8名
	JFAスタッフ	3名(名木 利幸氏、高橋 武良氏、村山 一平氏)

日程

#### 【1日目 12月25日(水)】

16:00 集合

17:30 指導者研修会

20:00 全体会

#### 【2日目 12月26日(木)】

9:30 第1試合 試合開始

19:30 研修

#### 【3日目 12月27日(金)】

9:30 第一試合 試合開始

19:30 研修

#### 【4日目 12月28日(土)】

9:00 マクドナルドフレンドリーカップ 試合開始

13:00 解散

## 2.研修内容

【1日目 12月25日(水)】

### (1) 模擬フィードバック実践

#### ○事前課題

研修に参加する前に前回大会の3試合を見て以下について考える

- ・インストラクターとして担当していたら、この審判員と「どんな話をするか」
- ・この試合の審判員だったらインストラクターの質問に「どのように答えるのか」

#### ○模擬フィードバック

二人一組になりインストラクター役と審判員役で10分間のフィードバックを行う

[JFA インストラクターからのアドバイス]

- ・たくさんの指摘をするよりも“これだけは”というものにフォーカスする
- ・10分間インストラクターが話すだけではなく審判員に話をさせる
- ・座って話すだけではなくジェスチャーや動きを取り入れるも良い

### (2) 大会に向けて

#### ○高橋氏より

- ・“アセッサー”ではなく“ナビゲーター”として次の試合(後半)に向けてなにができるか？目の前の目標を改善できるよう導くことが今大会の役割
- ・“選手が全力でプレーできるように“を指導者の立場からなにができるかを考える

#### ○大会、評価方法について

- ・大会期間中は審判員4名、インストラクター2名を1チームとして動く。また、割当は各担当インストラクターで決める。
- ・評価については下記アセスメントシートを使用する(後日提出)

JFA 第48回全日本 U-12 サッカー選手権大会 アセスメントシート										
試合	【マッチNo】	【対戦相手】	【会場名】				【試合日】	【審判員氏名】	【試合時間】	【試合結果】
結果	チーム名	対戦相手	試合結果	PK	計	PK				
	【チーム名】				0	KI				
	【チーム名】				0					
主審	【審判員氏名】	【所属】	【資格】				特記事項	(特になし)		
副審										
評価 < ◎:とても良い △:改善が必要 >										
A項 競技規則の解釈と適用		B項 マネジメント			C項 パフォーマンス			D項 ポジショニングと動き		
競技規則の適用が正しくできた		PK, GK, DF, MF, FWなどのポジションが守備に定着した			自陣・相手陣・縦断、横断がなかった			試合開始直後、試合終了直前、ハーフタイムにポジションが崩れた		
正しい判定を正しくできた		審判員、審判員へのマナーが守備に定着した			リーダーシップをとることができた			ゲームでマシな動きの取っ手、パスがなかった		
判定基準は一貫していた		シフト、ジェスチャーが明確にわかりやすかった			相手からの影響を受けていなかった			両陣営のポジションが崩壊に陥った		
アタッキングを的確かつ積極的に行っていた		コミュニケーションが、的確に取れていた			主審の指示を聞き、公平・公正だった			両陣営でパフォーマンスが落ちなかった		
両陣営の感情が安定していた		マナーが守備に定着した			気づいて行動がとれている			各々の役割をしっかりと果たしていた		
主審	【良かった点】									
	【改善点】									
	【今後に向けたアドバイス】									

### 【3日目 12月27日(金)】

#### (1) グループディスカッション

○大会を担当するために準備してほしいこと(地域でできること)

- ・審判報告書を作成したことのない審判員が多い。地域で書き方を指導する必要がある。
- ・自分が最終日まで残ることを望むあまりプレイヤーズファーストの精神があまり見られなかったことが残念。どの試合を任せられても選手のことを第一に考える気持ちを持ってほしい
- ・オフザピッチでの生活について今一度考えて大会に臨んでほしい(ホテルでの生活、移動時に点呼を取る、食事で率先して水を配るなど細かいところに気付ける審判員が少ない)

○試合を担当するために

- ・情報収集力(リーグ戦における試合の位置づけ、チームの特徴など)
- ・体力(40分×2試合)
- ・健康管理

○審判員たちの現在地

〈ポジティブな面〉

- ・走力、スピードのある審判員が多い
- ・競技規則の基本部分についての理解ができている

〈マイナスな面〉

- ・ゲームを読む力が少ない(FK?アドバンテージ?クイックスタート?)
- ・マネジメントの経験が不足している(判定に対して何か言われたときなど)

JFAより

ここに出た意見を整理して地域に還元し、来年度以降地域からこの大会へ派遣する審判員の選考基準としてほしい。

### **3.担当試合**

【12月26日(木)】

マッチ No.14

オオタフットボールクラブ(岡山県) 対 ボルト東山 F.C.(京都府)

主審:飯井咲希恵(石川県) 補助審判員:井上礼都(兵庫県)

JFA インストラクター:荒川吉郎氏

マッチ No.30 バディーサッカークラブ(神奈川県) 対 サンフレッチェ広島 F.C ジュニア(広島県)

主審:井上礼都(兵庫県) 補助審判員:鳥居改惟(神奈川県)

JFA インストラクター:小川直仁氏

マッチ No.45

ヴェルフェ矢板 U-12(栃木県) 対 グランディール FC(和歌山県)

主審:中倉咲姫(大分県) 補助審判員:宮崎雄飛(茨城県)

JFA インストラクター:渡辺典子氏

【12月27日(金)】

マッチ No.60

Br.ViBola(青森県) 対 FC ガウーショ(静岡県)

主審:飯井咲希恵(石川県) 補助審判員:木村尚暉(徳島県)

JFA インストラクター:清水崇之氏

マッチ No.68

東京ヴェルディジュニア(東京) 対 松本山雅フットボールクラブ U-12(長野県)

主審:井上礼都(兵庫県) 補助審判員:飯井咲希恵(石川県)

JFA インストラクター:清水崇之氏

マッチ No.F11(フレンドリーマッチ)

沖洲フットボールクラブ(徳島県) 対 グランディール FC(和歌山県)

主審:吉村心(北海道) 補助審判員:中倉咲姫(大分県)

JFA インストラクター:浜田章治氏

【12月28日(土)】マクドナルドフレンドリーカップ

マッチ No.FC11

鹿島アントラーズつくばジュニア(茨城県) 対 ソレソ熊本 U-12(熊本県)

主審:鳥居改惟(神奈川県)

マッチ No.FC4

北海道コンサドーレ札幌 U-12(北海道) 対 ディアブロッサ高田 FCU-12(奈良県)

主審:木村尚暉(徳島県)

#### 4.JFA インストラクターよりご指導頂いた点

##### ○荒川吉郎氏より

- ・競技規則の適用間違いがあったときにそこを理解させるための導き方の工夫が必要(こちらから答えを与えるのではなく間違いがなかったのかを考えさせたい)
- ・一気に話をすると審判員たちは覚えきれない。良かった点、改善点共に伝えるのは多くても2、3個に絞って話をしたい
- ・切り離しのソックスを着用しており、ストライプの柄が一部違う柄に見える選手がいた。試合が始まる前に注意したい。

##### ○渡辺典子氏より

- ・審判員に“走れてないですよ”と言われたときにこちらから答えを与えるのではなくなぜそう思ったのかを引き出してあげる必要がある
- ・バックステップが多くなぜそこでバックステップが必要なのか(どのような意図で?)を考えさせたい
- ・こちらが話すよりも審判員に話をさせるようにする
- ・デモンストレーションを取り入れることで審判員は頭ではなく体でその動きを覚えることもできるので有効である

##### ○清水崇之氏より

- ・警告のシーンを確認する際、同じように挑んだシーンでは警告が出なかったのに一方では警告となった事象を審判員自身に比較させ考えさせる
- ・ファウルをとりフリーキックから得点となったシーンで一気に試合の流れが変わりこの試合の大きなターニングポイントとなったが、その判定は正しかったか？審判員自身がどのように事象をとらえていたか、その流れを感じ取ることができていたかを確認する必要がある

## 研修を終えて

2 級インストラクターの資格を取得し一年が経ちました。この一年間アセスメントレポートを書く機会も決して多くはなく、これから経験をたくさん積んでいく必要があるなかでこの研修会に参加させて頂けたことにまずは感謝申し上げます。

これまで審判員として様々な研修会に参加し、それぞれでたくさんのことを学び、志の高い仲間たちに出会ってきました。今回はインストラクターとして初めて大きな研修会に参加すること、審判員は高校生であり、こちらの導き方で今後の審判人生に少なからずの影響を与える可能性があることなどを考えると不安も緊張もありました。しかし昨年度もこの研修会に参加された靄山インストラクターが事前に北海道から参加する2名の審判員を対象に実技研修会や Web 研修会を開催してくださり昨年度の様子を聞くことができたおかげで私も心の準備を整えることができました。

大会期間中は審判員4名とインストラクター2名の計6名を1チームとして行動を共にしました。審判員たちは皆はじめての全国大会ということもありとても緊張している様子が伺えました。自分も初めて全国大会へ参加したときは同じように緊張していたことを懐かしく思いながら、試合中だけではなく空き時間などにも積極的にコミュニケーションをとることを心掛けていました。審判員たちのパフォーマンスが前半よりも後半、1試合目よりも2試合目、1日目よりも2日目と、どれだけ目の前の課題を解決し成長することができるかを考えアドバイスを送ることが今大会でのインストラクターの役割であると説明を受けていたため、良い点を見出すこと、なにを改善すれば更に良くなるかを考えながら試合に臨みました。10分しかないハーフタイムに要点のみを簡潔に伝えることはとても難しくインストラクターの方からもこちらが話をしすぎていることを指摘されました。一方的に伝えるのではなくもっと審判員と対話をしなければならないことを痛感しました。これはこの研修会がそのような趣旨だからではなく、地域で活動するときにも同じことが言えると感じたので今後の活動に活かしていきたいです。

地域から派遣されたインストラクターは年齢も職種も様々でサッカーをしていなければ出会うこともないような方ばかりでした。皆さんとても気さくでディスカッションをした際も途切れることなく意見が飛び交い時間が足りなくなるほどでした。会場にいる間は審判員以上に気を配らなければならないことが多く大変だと感じることもありましたが、選手のため審判員のため、そして大会を成功させるためという共通認識のもとで活動することができとても充実した濃い時間を過ごすことができました。ここで繋がることができた縁を今後も大切にしていきたいです。

これまでの私はインストラクターの資格を取得したものの、人前に立って話をするのは得意ではない。ええ人になにかを伝えることはとても難しく、私がインストラクターとして活動する意味とはなんだろう。こんな私にインストラクターなど本当に務まるのだろうかなどとネガティブなことばかりを考えていました。

今回の研修会には5名の女子審判員が参加しました。大会当日のアクシデントや試合についての他にも困ったことや審判活動をしていくうえで悩んでいること、泣いてしまったことなど様々な話をしてくれました。同性である私に対して他のインストラクターの方よりも少しだけ気を許してくれたのか、話しやすいと思ってくれたのかはわかりません。ですが不安を感じた中で少しでも気持ちが楽になり、彼女たちがまた前向きな気持ちで試合に臨むことができたのであればこの経験はインストラクターとして私が研修会に参加し得ることのできたひとつの財産なのではないかと感じました。同時に、女性のインストラクターにはこのような若い女子審判員に対して試合内外でフォローが必要な場面があることを実感しました。試合を分析する力やフィードバックの方法などインストラクターとして高めていかなければならない知識もたくさんありますが、この研修会を通じて女子審判員の“頼れる相談役”でいられるようなインストラクターになりたいと新たに目標を持つことができました。

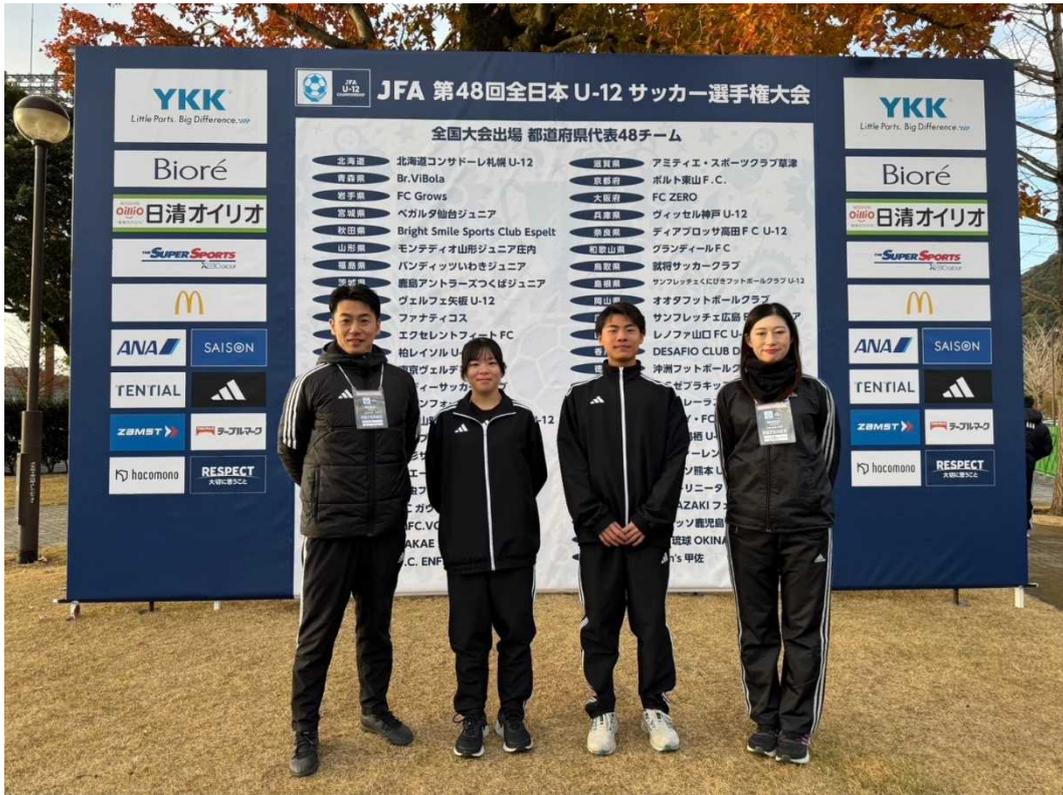
この研修会に私を推薦し参加させて頂けたことに改めて感謝申し上げます。本当に多くの学びがありました。ここで得た経験と知識、JFA インストラクターの皆様から頂いたアドバイスは今後の活動に繋ぐことができなければ鹿児島まで行った意味がないと思っています。まずは自分のできる範囲から。そして、少しずつインストラクターとして活動できる場を増やしていけるよう努力していきます。ありがとうございました。



大会期間中共に行動していたチーム



地域インストラクターとJFA インストラクター



チーム北海道



今回参加した5名的女子審判員